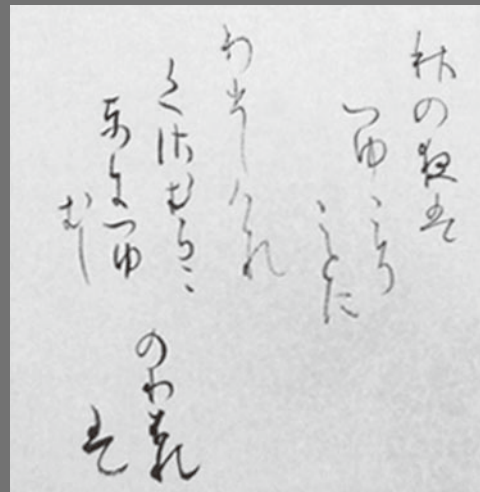
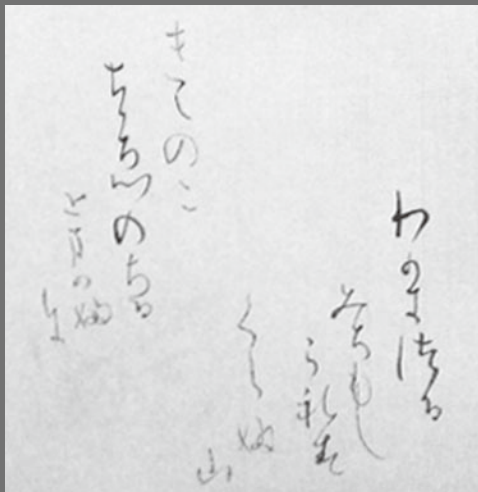
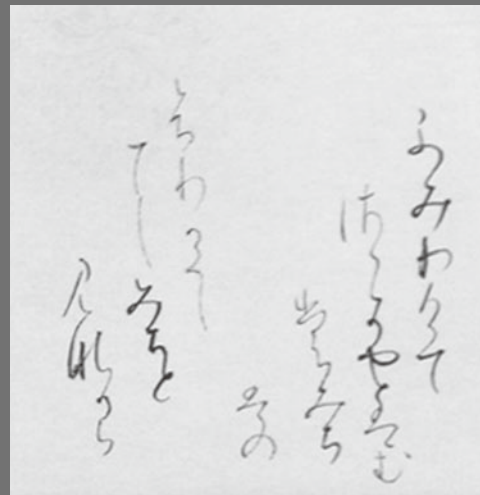
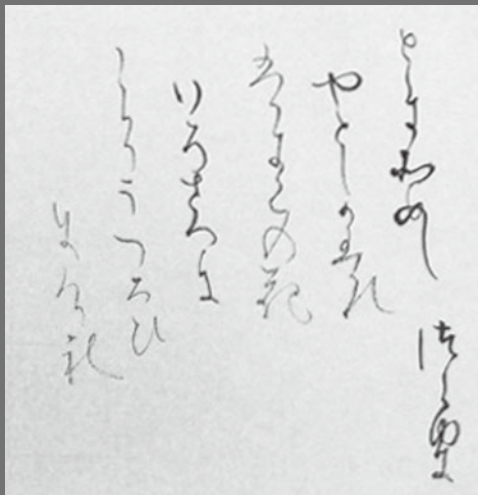


第3回

中央大学書道會

HAKUMON Chuo 書展



◎臨書 伝紀貫之「寸松庵色紙」

文学部4年 三浦望

去年の白門祭出展作品です。心惹かれた秋の歌四首を臨書しました。それぞれの歌のイメージに合わせて、和紙の色も選びました。松虫の鳴き声や紅葉などを詠った歌からは、美しい情景が目に見え、もの寂しさも感じられます。そんな繊細な和歌の世界を表現できたらなああと心を込めました。

◎臨書 孫秋生造像記

文学部4年 高橋篤人

この作品を以て、自分の中の「学生書道の集大成」と勝手に位置づけようと思う。1年次は初唐の楷書から基礎を固め、造像記に着手したのは2年次になってからである。以来、夏の「全日本高校・大学生書道展」での入賞一点のみに照準を合わせ練習を重ねた。3年になりようやく人様の前に陳列されるに足るものが書けるようになり、ひとつの悲願を達成することができた。私は、1年間この会の最高責任者として、実務的役割はあまり果たしていない。「できるヤツ」がいるとすぐ甘えが出るのです。開き直って言えば、「誰かに助けてもらわないと生きていけない自信」がある。しかし、「会長としての作品」を作り上げる努力を怠ったつもりは微塵もない。誰よりも「書いた」という自負がある。会長はまず「書道の人間」であらねばならないと考えるからだ。会長の仕事はまず書道である。と、勝手に考えている。そんな会長の仕事に専念できたのは、副会長はじめ他の執行役員の方々のおかげです。ありがとう。マジで。また、今回の作品を完成させることができたのも北野先生、高校時代の恩師のお力添えがあってこそです。自分の作品は決して自分だけの力量では成らないことを心に刻み今後も精進していきたいです。



◎創作 「百花繚乱」

法学部4年 的場亮介

「百花繚乱」は、私の好きな四字熟語の一つであり、様々な書体の作品が並ぶ書展の華やかさを表す美しい言葉であると思い、昨年の学内書展の際に制作しました。わたしは、臨書を書くときは何度も練習をしてじっくり書き上げるのですが、本作はあまり深く考え込まずに自分の感性に少し修正を加える感じで比較的短時間で制作しました。大学生活も残り一年となりましたが、卒業までの時間を有意義に過ごしたいと思います。